

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代男性)ありました。症状はありません。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は31例となりました。

発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。

○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>

- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代男性)(第48週追加報告分)ありました。症状は肺炎、菌血症、敗血症です。感染地域は国内で、感染経路は医療器具関連です。本年の累積報告数は41例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)ありました。症状は発熱、咳、肺炎です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は68例となりました。

京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。

○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>

- 百日咳の報告が3例(30歳代男性1例、10歳未満及び10歳代女性各1例)(第47週追加報告分1例含む)あり、いずれも感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は75例となりました。
- 麻疹(検査診断例)の報告が1例(10歳未満男性)ありました。症状は発熱、咳、鼻汁、結膜充血、眼脂、コプリック斑、発疹です。感染地域、感染経路は不明です。本年初めての報告となっています。
- インフルエンザの定点当たり報告数は京都市で0.55(38例)、全国では1.70となり、28の都道府県で流行入りの目安とされる1.0を超えています。近畿では大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県で1.0を超えています。

◆ 今週のトピックス: <百日咳>

百日咳(五類感染症)は、本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。変更前の平成25年から29年までの年間の小児科定点医療機関からの報告数は、京都市では5～13例、全国ではおよそ1,700～3,000例で推移していました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 320例(肺結核 146例, その他結核 74例, 潜在性結核感染者100例)うち喀痰塗抹陽性 74例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数31例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 41例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 68例】
- 五類:百日咳 3例【1月以降の累積報告数 75例】
- 五類:麻疹(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ*	0.55	38
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.26	269
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.09	47
	③ 水痘	0.56	24
	④ 伝染性紅斑	0.47	20
	⑤ 突発性発しん	0.37	16
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <百日咳>

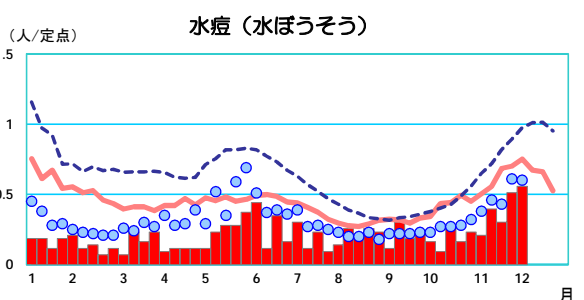
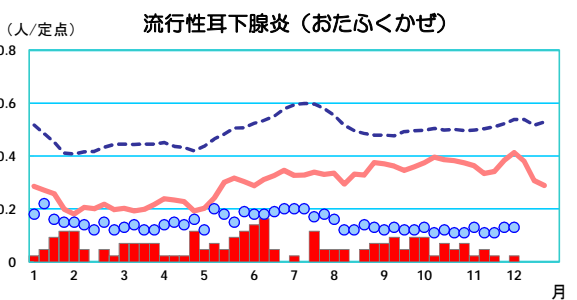
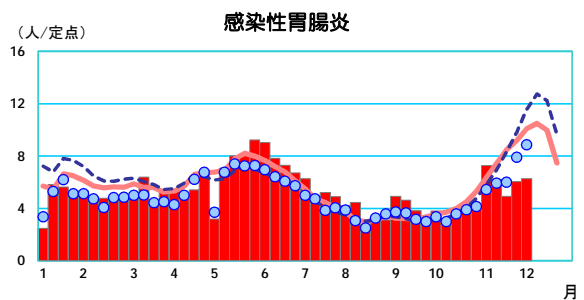
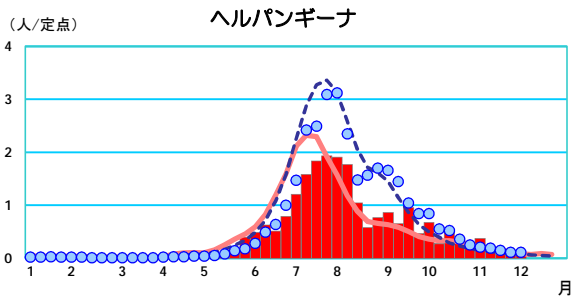
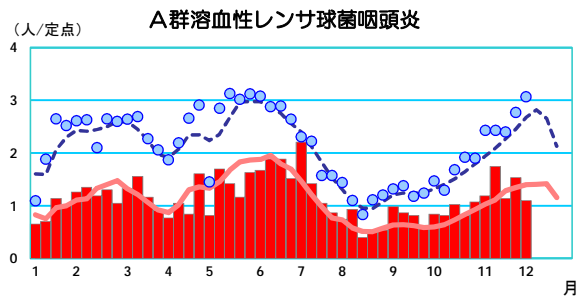
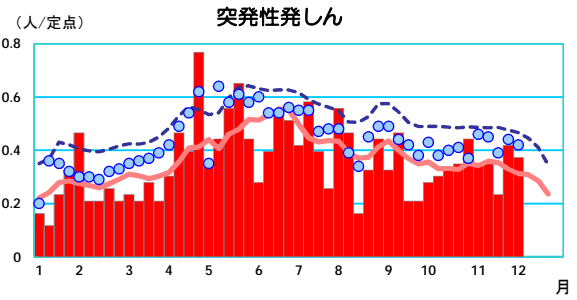
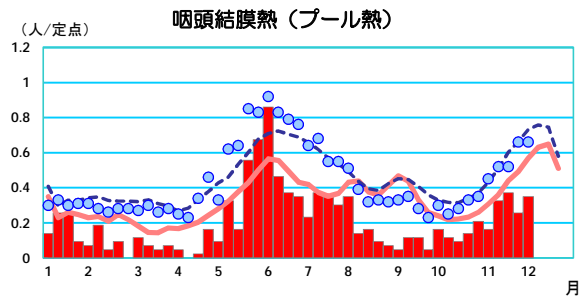
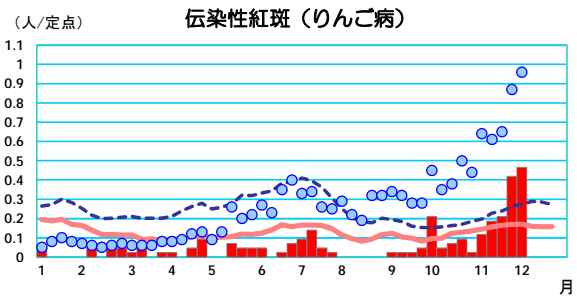
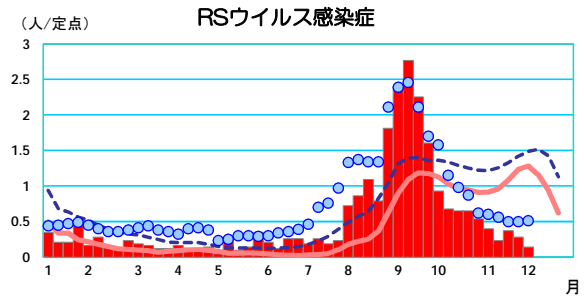
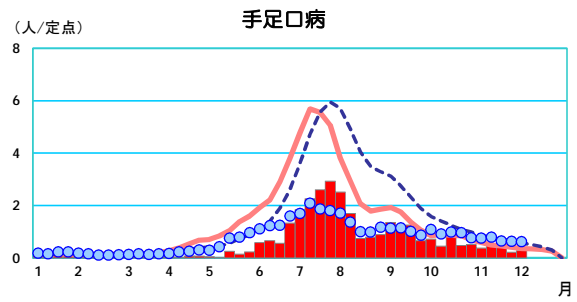
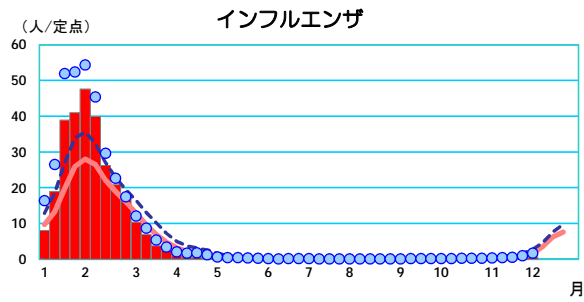
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年12月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第49週(12月3日～12月9日) トピックス: <百日咳>

百日咳(五類感染症)は、本年1月1日から、それまでの小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。変更前の平成25年から29年までの年間の小児科定点医療機関からの報告数は、京都市では5～13例、全国ではおよそ1,700～3,000例で推移していました。変更後の本年第49週までの京都市内医療機関からの累積報告数は75例、全国では10,782例となっています。報告の基準が変更になったため単純な比較が適当とは言えませんが、京都市及び全国のいずれも昨年一年間の報告数を大きく上回り、これまで把握しきれていなかった症例が把握されるようになってきました(表1及び図1)。

全数把握疾患変更後の全国の年齢別発生動向をみると、これまで十分把握できていなかったとされる20歳以上の報告が寄せられるようになった一方、発生年齢はおおむね学童期及びその後数年の年齢にあたる5歳～14歳に集中する傾向がみられます(図2)。

百日咳の定期予防接種は生後3箇月から始まり、合計4回接種します。ただし、国立感染症研究所によると、百日咳と診断された5歳から15歳の症例のうち、4回のワクチン接種歴がある症例が約8割を占めているとする調査結果もあり、定期接種を済ませていても、百日咳に罹患する可能性が十分にあると考えられます。また、ワクチン接種開始前の乳児の症例もあり、この年齢は重症化しやすいため、特に注意が必要です。

学童期以降の百日咳に対する免疫を維持することを目的に、日本小児科学会では、就学前に三種混合ワクチンの追加任意接種を推奨しています。また、11歳以上13歳未満の定期接種については、二種混合ワクチンの代わりに、三種混合ワクチンも追加接種できる(ただし任意接種)ようになりました(図3及び下記ホームページ)。なお、成人であっても、任意で三種混合ワクチンを接種することができます。三種混合ワクチンの接種についてはかかりつけの医療機関にご相談ください。

○日本小児科学会「日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールの変更点」

https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf

短い咳が連続する、咳の後に息を吸うとき「ヒュー」と音がする、咳が長引くなどの症状がある場合や、学校、保育所、職場あるいは家族など身近にそのような症状の人がいる場合には、定期接種を済ませている場合であっても、早めに受診しましょう。

表1 京都市と全国の累積報告数の推移

	累積報告数	
	京都市	全国
H25	5	1,662
H26	7	2,066
H27	13	2,675
H28	10	3,011
H29	8	1,661
定点把握から全数把握に変更		
H30(第49週まで)	75	10,782

図1 京都市と全国の累積報告数の推移

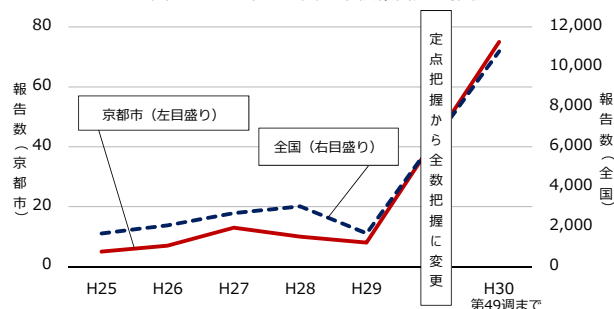


図2 全国の百日咳の年齢分布(平成30年 第1週～第49週)

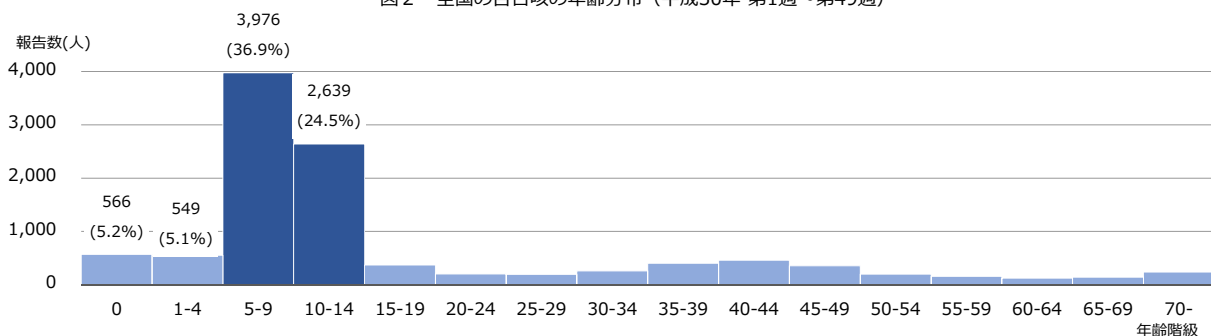


図3 二種混合、三種混合、四種混合ワクチンの接種時期

ワクチン	0歳												1歳												2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳
	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	0ヶ月	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月												
四種混合 三種混合 二種混合				四混 1回目	四混 2回目	四混 3回目						四混 4回目									任意で三混 百日咳予防のため								二混 任意で三混も可 百日咳予防のため						

四種混合(DPT-IPV) : ジフテリア(D), 百日咳(P), 破傷風(T), ポリオ(IPV)
 三種混合(DPT) : ジフテリア(D), 百日咳(P), 破傷風(T)
 二種混合(DT) : ジフテリア(D), 破傷風(T)

※三種混合ワクチンの接種時期について模式的に示したものです。

接種時期及び接種ワクチンについてはかかりつけの医療機関にご相談ください。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第49週

平成30年12月3日～平成30年12月9日

データ入手日:平成30年12月12日

疾病,行政区別報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2						
上京	10	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	1	2	4	37	4	-	-	1	-	-	-	-						
中京	-	-	-	4	15	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	2	-	-	1	16	1	1	-	-	-	-	-	-						
山科	6	1	-	3	10	3	4	1	3	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-						
南	10	-	2	3	22	2	-	-	3	1	-	-	-						
右京	4	1	6	13	44	6	-	11	4	-	-	-	1						
伏見	2	1	1	7	90	2	7	5	4	-	1	-	-						
西京	-	-	2	11	29	2	-	2	-	2	-	-	-						
京都市計	38	6	15	47	269	24	12	20	16	3	1	-	3	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	0.57	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	2.00						
上京	2.00	0.67	0.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	0.25	0.50	1.00	9.25	1.00	-	-	0.25	-	-	-	-						
中京	-	-	-	1.33	5.00	0.67	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	0.67	-	-	0.50	8.00	0.50	0.50	-	-	-	-	-	-						
山科	0.86	0.20	-	0.60	2.00	0.60	0.80	0.20	0.60	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	1.50	1.00	-	-	-	-	-	-	-						
南	2.00	-	0.67	1.00	7.33	0.67	-	-	1.00	0.33	-	-	-						
右京	0.50	0.20	1.20	2.60	8.80	1.20	-	2.20	0.80	-	-	-	1.00						
伏見	0.18	0.14	0.14	1.00	12.86	0.29	1.00	0.71	0.57	-	0.14	-	-						
西京	-	-	0.40	2.20	5.80	0.40	-	0.40	-	0.40	-	-	-						
京都市計	0.55	0.14	0.35	1.09	6.26	0.56	0.28	0.47	0.37	0.07	0.02	-	0.30	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第49週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年12月3日～平成30年12月9日

データ入手日:平成30年12月12日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	38	-	-	-	3	-	-	2	-	2	3	-	3	5	6	5	3	3	1	1	1	
RSウイルス感染症	年齢3	6	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		15	1	-	7	2	-	1	-	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		47	-	-	1	2	3	4	4	8	9	3	3	6	1	3	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		269	5	8	36	36	40	26	26	12	15	6	14	17	5	23	-	-	-	-	-	-	
水痘		24	1	1	4	-	3	4	4	2	2	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		12	-	1	5	2	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		20	-	-	-	-	3	4	5	1	2	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		16	-	7	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		3	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.55	-	-	0.04	-	-	-	0.03	-	0.03	0.04	-	0.04	0.07	0.09	0.07	0.04	0.04	0.01	0.01	0.01	
RSウイルス感染症	年齢3	0.14	0.12	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.35	0.02	-	0.16	0.05	-	0.02	-	0.05	-	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.09	-	-	0.02	0.05	0.07	0.09	0.09	0.19	0.21	0.07	0.07	0.14	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		6.26	0.12	0.19	0.84	0.84	0.93	0.60	0.60	0.28	0.35	0.14	0.33	0.40	0.12	0.53	-	-	-	-	-	-	
水痘		0.56	0.02	0.02	0.09	-	0.07	0.09	0.09	0.05	0.05	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.28	-	0.02	0.12	0.05	-	-	-	-	0.02	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.47	-	-	-	-	0.07	0.09	0.12	0.02	0.05	0.02	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.37	-	0.16	0.19	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.07	-	-	0.02	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		0.30	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第49週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年12月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	4	13	13	22	27	38
RSウイルス感染症	23	17	10	16	12	6
咽頭結膜熱	9	7	14	16	11	15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	51	75	49	66	47
感染性胃腸炎	175	313	267	212	260	269
水痘	10	9	17	13	22	24
手足口病	22	16	21	20	9	12
伝染性紅斑	1	5	8	9	18	20
突発性発しん	19	15	15	10	18	16
ヘルパンギーナ	8	16	8	3	5	3
流行性耳下腺炎	3	1	2	1	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	4	4	4	1	3
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	326	467	454	375	449	454

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.06	0.19	0.19	0.32	0.39	0.55
RSウイルス感染症	0.53	0.40	0.23	0.37	0.28	0.14
咽頭結膜熱	0.21	0.16	0.33	0.37	0.26	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.07	1.19	1.74	1.14	1.53	1.09
感染性胃腸炎	4.07	7.28	6.21	4.93	6.05	6.26
水痘	0.23	0.21	0.40	0.30	0.51	0.56
手足口病	0.51	0.37	0.49	0.47	0.21	0.28
伝染性紅斑	0.02	0.12	0.19	0.21	0.42	0.47
突発性発しん	0.44	0.35	0.35	0.23	0.42	0.37
ヘルパンギーナ	0.19	0.37	0.19	0.07	0.12	0.07
流行性耳下腺炎	0.07	0.02	0.05	0.02	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.60	0.40	0.40	0.40	0.10	0.30
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.01	11.05	10.75	8.84	10.28	10.46

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。